



安らかな村生活

お久しぶりです。前回から少し時間が空いてしまいましたが、引き続きパプアニューギニアでの生活についてお伝えしていきたいと思えます。今回は、私の住んでいるポポンデッタ市から車で約1時間の場所にある「ブナ村」で宿泊した時のお話です。村での暮らしはとても穏やかで、騒がしい州都ポポンデッタとはまったく違う世界でした。一見すると不便に思える生活の中でも、人々はいつも笑顔で幸せそうに過ごしていました。宿泊先の大家さんがこう話してくれました。「これが本当のパプアニューギニアの暮らしだ。今はポポンデッタにも中国などの企業が入ってきて便利になったが、その分、貧富の差が生まれ、ゴミや犯罪も増えている。私は村での生活の方が好きだ。」私もその言葉の意味がなんとなく分かった気がします。便利な場所では、どうしても大きな幸せを追い求めてしまいます。しかし、村では限られたモノしかないからこそ、工夫して新しいものを生み出したり、小さなことにも幸せを感じたりして過ごしているのです。そんなことを実感した2泊3日の滞在でした。ぜひ、皆さんにも機会があれば体験してほしいと思えます。

それでは、写真とともにブナ村での生活をご覧ください。

【こんなところに泊まりました！】

① 村までの道は道路など整備されていなく、デコボコ道をいくつも越えて、村にたどり着きました。壁もない開放的な家や大自然が広がる村が現れました。



② ウェルカムドリンク？村のココナッツは絶品！殻を割って、内側の実も残さず食べます。



③ ゲストハウスは竹など木材で作られており、個別に部屋も分かれていました。蚊帳もあり、防蚊対策ばっちり。



④ 右はシャワールーム。現地の人は庭で開放的に水浴びしていましたが、私は壁のあるところで、雨水と井戸水を使ったシャワー。



⑤ トイレも水洗トイレ。雨水で流す。ちびっ子は外で洗っていました(笑)



⑥ 綺麗な井戸水。飲料水はここからバケツで汲み取ります。腹痛を懸念しましたが、ミネラルウォーター並みに美味しかったです。自然の恵みに感謝。



【ブナ小学校】



⑦ 村にも学校はあります。校内には、爆弾落下のクレーターの跡や戦闘機のエンジンなど、戦争の跡が見られます。

【日本と深い関わり】



⑧ ブナ村⇒1942年、日本軍が上陸・占領。

アメリカ・オーストラリア連合軍と激しい戦闘が行われた「ブナ・ゴナの戦い」熾烈なジャングル戦・泥沼の戦闘で、多くの死者。⇒この戦いは、連合軍のニューギニア反攻の始まり。

戦闘機の翼、複数のオーストラリア軍の戦勝記念碑あったり、戦いの記録が石碑に刻まれている。

【自然と暮らす生活】



⑨ のどかな村のビーチ

⑩ バナナリーフをベッドにして外でござり。



【お知らせ】

"共に生き、共に働く"姿 - テレビ番組で紹介された協力隊の挑戦！

オロ州にある小学校の4年生30名が、環境学習の一環として「トラッシュアート作品」を制作しました。身近なごみを材料とすることで、環境問題について楽しく学び、行動を見直すきっかけとすることをめざした活動です。

この取り組みを中心となって支えたのが、同校に派遣されている海外協力隊・鈴木佑厚員（高少年活動）です。鈴木厚員は、日頃から算数や環境教育を通じて児童の主体的な学びを促しており、今回の活動でも授業、ビーチ清掃、作品制作の全てに関わりました。

⑪村で飼育？している豚をその場で狩り、さばいていく。豚の鼻から指先、煮汁まですべて大事にいただく。自給自足だからこそ何一つ無駄にしない食がありました。

[未来につなぐ環境教育 アートでゴミ問題を考える。 | 海外での取り組み - JICA \(JICA HP\)](#)

『JICA 海外協力隊世界日記』

PNG のテレビやラジオに出演しました。

["共に生き、共に働く"姿 - テレビ番組で紹介された協力隊の挑戦！ | パプアニューギニア便り\(パプアニューギニア事務所\) | JICA 海外協力隊の世界日記](#)

[3名のJICA海外協力隊員がNBCラジオに出演！ | パプアニューギニア便り\(パプアニューギニア事務所\) | JICA 海外協力隊の世界日記](#)

@bridge_png_jpn
(動画&写真見ながら、Instagramのアカウント)